♦ NEW

磯野家とは言うまでもなく、サザエさん一家のこと。このサザエさん一家は3世代7人が同居するという大家族です。そこで、聞きたいのですが、あなたの周囲に、こんな大家族がいますか?

私の周囲には、まったくいません。とすると、なぜ、サザエさん一家が、日本の典型的な家族とされているのでしょうか?



<u>2015 年磯野家の崩壊 アベノミクスの先にある「地獄 」 ...</u>

磯野家の人々は永遠に年を取りません。フィクションだから当たり前ですが、サザエさん一家がいつまでたっても3世代同居で7人という大家族であることは、いまの日本の現実とは大きくかけ離れています。

半世紀前は、日本の世帯の約半分が3世代世帯でした。しかし、いまや核家族、単独世帯が一般的で、とくに都市部では3世代世帯は極端に少なくなり、東京23区の3世代世帯が全世帯に占める割合は、なんと2.0%にすぎません。

そこで、本書では、サザエさん一家を、こうした日本の現実のなかに入れ、私たちの将来を 考えてみることにしました。家族の将来というより、もっと大きく、この先の日本経済、日本 という国の在り方までも、考えてみたのが本書です。

そうしてみると、どう考えても、磯野家はいずれ崩壊せざるを得ないという結論になります。

2012年暮れに安倍晋三内閣が誕生し、アベノミクスを打ち出して以来、日本はデフレを脱却して、やがて成長を取り戻すようなムードになっていいます。しかし、これは実体のないバブルにすぎません。とすると、その反動は大きく、今後予定される大増税と併せて、日本の家庭は大変な試練に直面します。

そこで、本書のサブタイトルを〈アベノミクスの先にある「地獄」〉とし、そのときに日本社会がどうなっているかを描きました。たとえば、「老人しかいない街が都内各所に出現」「大増税が家計を直撃し、家庭が崩壊」「サラリーマン、OLが消滅」などが起こり、日本社会はいままでとはまったく違ってしまうでしょう。

アベノミクスのついては2章を設け、「安倍バブルはいつ崩壊するのか」に関して私見を述べています。

じつは、私は以前から「磯野家」をタイトルに拝借した本を書いてみたいと、ずっと思ってきました。

これまで、そういう類の多くの「磯野家」本が生まれてきました。その最初の本、ミリオンセラーになった『磯野家の謎.「サザエさん」に隠された69の驚き』(東京サザエさん学会編 1992)をプロデュースしたのは、じつは、私とは30年近くのつき合いがある杉森昌武(出版プロデューサー、作家)です。だから、彼にならってみたわけです。

ただし、本書は、これまでの「磯野家」本とは違って、サブカル本、研究本ではありません。 経済の本です。私が本書に書いた日本の現実、問題点は、そのまま私の問題でもあり、日本の 家族ぜんぶの問題であると思っています。

以下が、本書の目次です。

第1章 アベノミクスで家庭崩壊

- ■デフレ脱却のためにカネを刷ってばらまく
- ■アベノミクスでバブルが起きた
- ■デフレの責任は日本銀行にある?
- ■日銀はどのように景気をコントロールするのか?

■デフレ退治は熱を下げるのと同じ
■昭和恐慌の高橋是清「積極財政」の教訓
■一般国民の暮らしという視点に欠ける
■円安で輸入インフレが起こり長期金利が上昇
■「景気が悪いのは国のせい」と思っている国民
■政府が支出を増やしても雇用は改善されない
第2章 2015年の磯野家
第2章 2015年の磯野家 ■あれから25年後の磯野家の子供たち

■年金の負担と給付のバランスが崩れる
■もうひとつの2015年問題は非正規雇用者の増加
第3章 老人しかいない街
■平均寿命80歳超時代への不安
■超・高齢化社会がもたらす問題点
■「都心の限界集落」都営戸山ハイツ
■年齢別人□でもっとも多いのが70歳代の高齢者
■都会では孤立化が地方より厳しい
■ベッドタウンはいまや本当のベッドタウンに!
■日本の世帯でもっとも多いのは「1人世帯」
■子供の姿がない街で1人で宅配弁当を食べる

第4章 大増税が家庭崩壊
■増税メニューの第一弾は「復興増税」
■増税を和らげようと減税メニューも
■隠れた増税も次々に始まった
■消費税だけではない、増税メニュー目白押し
■取りやすいサラリーマン層を狙い撃ち
■源泉徴収制度のおかげで「思考停止」
■グローバル化に適していない日本の税制
■所得税増税に見る富裕層課税のペテン
■日本の法人実効税率は高すぎるのか?

■日本人の雇用が増えるとは限らない

第5章 庶民も払う相続税
■基礎控除の縮小は納税者の数を増やすため
■非課税額が改正前の約4割に圧縮
■磯野家の相続税は400万円に!
■「一次相続」で納税を先送りしてもムダ
■「なぜ死んでまで税金を払うのか?」
■増税して格差を是正することが可能か?
■「相続税100%」でいったいなにが起こるか?
■税金によって国民をコントロールする

第6章 年金はもらえない
■2013年10月から年金が消えていく
■消費税増税は年金を安定化させるため
■もともと引き上げ税率は10%ではなかった
■運用金利4・1%でないと維持できない年金
■ネズミ講とまったく同じ詐欺システム
■年金は60歳からもらったほうがトクなのか?
■老後資金は働けるうちにつくっておく
第7章 サラリーマン、OL消滅
■史上空前の大リストラに戦々恐々

■「追い出し部屋」記事の向こう側
■サラリーマン社会の崩壊を米紙が報道
■10年以上前から用意されていたサラリーマン消滅
■残業代がなくなる法案を覚えていますか?
■「過労死促進」に法案提出断念
■65歳定年延長でなにが起こるのか?
■2050年の世界はどうなっているか?
第8章 女性差別社会
■専業主婦になれない女性が続出
■独身女性の3人に1人が「貧困女子」
■労働現場での男女格差は世界最低レベル

■ダボス会議も日本女性の地位の低さを指摘
■「男女雇用機会均等法」とはなんだったのか?
■女性の非正社員化に拍車がかかっただけ
■安倍内閣の「女性の地位向上」は本気?
■出産と育児で会社を辞めると先がない
■「女性が自由になった」は単なる幻想
第9章 日本はどんな国?
■答えは「経済成長ができる国」
■半世紀前の「貿易立国」はいま?
■貿易収支が過去最大の赤字

■日本経済は輸入に親っていない
■貿易収支より経常収支のほうが大事
■海外の子会社が日本の親会社を支えている
■空洞化が国内雇用を減らしているのか?
■新興アジアに「サザエさん」はよく似合う
第10章 安倍バブルはいつ崩壊?
■ケインズとハイエクが対決するビデオ
■政治家はケインズ経済学が大好き
■日銀の「無期限の金融緩和」に一時的失望
■「いつ崩壊するか?」の予想投票
■「日本の円安政策はこれ以上容認できない」

■ターニングポイントは次のIOC総会
■ライバル2都市のうち、マドリードがまず脱落
■イスタンブールが有力なこれだけの理由
■「安全」「コンパクト」にアピールポイントなし
■国家破綻はあるのか?ないのか?
■財政法を無視した国債の大量発行
■小さな政府こそ日本のあるべき姿
■アルゼンチンのように国家破綻?
第11章 さよならニッポン!
■サザエさんの最終回はどうなるのか?

- ■「となりの山田さん」は磯野家の隣人?
- * 会津のジャンヌ・ダルク *
- ■心がきれいで学識豊かな女性を伴侶に
- ■地位が低くとも明治女性は強かった
- ■「この目で世界を見て回りたい」
- ■日本人のアメリカ留学生は激減
- ■新島襄はパスポートなき脱国者だった
- ■近代日本の発展に貢献したのは誰か?